

「がん」支援策を2つ実現

神奈川県議会議員 公明党 鈴木ひでし

がんゲノム医療の幕開け

「このちと生活を守る」をモットーに、4期16年目も、実績でお応えすべくと努めてまいりました。春が近づくと、年度末といつこともあり、改めて身の引き締まる思いであります。そんな中、本日は「がん」の支援の実績をお伝えいたします。

最適な治療見つける

また、今年度は、がん治療の新たな分野、ゲノム医療の幕開けと言える年でした。

生涯2人に1人はがんにかかると言われ、がんは誰にとっても身近な病気となりました。医療の進歩により、がんと共存しながら長い人生を過ごす方も増えており、治療はもろもろのケアや、仕事や日常生活での困りごとなど、患者やご家族の気持ちに寄り添った支援が重要だと痛感しています。

例えば、治療に伴う脱毛や肌のくすみなどの外見（アピランス）の変化により、精神的に大きなショックを受ける患者さんも多く、サポートが求められていました。そこで、私の提言をきっかけに、県立がんセンターでは都道府県立病院で初めて、外見の変化に専門的に対応する「アピランスサポートセンター」を設置し、ウィッグの選び方などの具体的な助言や情報提供を行っています。

また、今年度は、がん治療の新たな分野、ゲノム医療の幕開けと言える年でした。



「がん」の支援の実績をお伝えいたします。

また、今年度は、がん治療の新たな分野、ゲノム医療の幕開けと言える年でした。

また、今年度は、がん治療の新たな分野、ゲノム医療の幕開けと言える年でした。



また、今年度は、がん治療の新たな分野、ゲノム医療の幕開けと言える年でした。

また、今年度は、がん治療の新たな分野、ゲノム医療の幕開けと言える年でした。

相談窓口も設置

また、今年度は、がん治療の新たな分野、ゲノム医療の幕開けと言える年でした。

また、今年度は、がん治療の新たな分野、ゲノム医療の幕開けと言える年でした。

また、今年度は、がん治療の新たな分野、ゲノム医療の幕開けと言える年でした。